

令和6年3月31日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学校名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立三笠小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立三笠小学校	http://www.kashima.ed.jp/~mikasa-el/wp/?page_id=24990	http://www.kashima.ed.jp/~mikasa-el/wp/?page_id=24990

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
85.0 %	13.0 %	0.0 %	2.0 %

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
89.0 %	9.0 %	2.0 %	0.0 %

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
94.0 %	2.0 %	3.0 %	1.0 %

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという と知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
98.0 %	2.0 %	0.0 %	0.0 %

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
73.7 %	25.3 %	1.1 %	0.0 %

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
83.2 %	15.8 %	1.1 %	0.0 %

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
89.5 %	10.5 %	0.0 %	0.0 %

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
85.3 %	14.7 %	0.0 %	0.0 %

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうと する態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
94.7 %	5.3 %	0.0 %	0.0 %

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっている と思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
95.5 %	4.5 %	0.0 %	0.0 %

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
59.3 %	40.7 %	0.0 %	0.0 %

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な視野が広がり、他の国や文化に関心をもち、異文化理解を深めることができること。 ・児童のコミュニケーション能力が向上すること。 ・言葉や文化を共有し、コミュニケーションスキルを発展させることができること。 ・将来のキャリアの可能性を広げること。 ・英語をすきになってほしいこと。 ・楽しみながら英語を慣れ親しめる内容であること。 ・コミュニケーションの楽しさを実感し、互いに理解することの大切さを学ぶこと。 ・リスニング力の向上をすること。 ・外国語への関心の高まること。 ・ALTをはじめとした外国の人たちと関わること。 ・児童が間違いを気にしないで、積極的に外国語を使用していくこと。 ・外国語や外国の文化に触れることを楽しいと感じてほしいこと。 			

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
49.5 %	42.1 %	6.3 %	2.1 %

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
63.2 %	30.5 %	6.3 %	0.0 %

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
38.9 %	46.3 %	12.6 %	2.1 %

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・身近に英語を楽しむことで、英語が楽しいと思えること。 ・外国の生活や暮らし、文化などの紹介をしてもらえること。 ・自分と違う人を受け入れる気持ちを養うこと。 ・楽しく活動できることと、外国語と外国の文化に対する興味や関心を高められること。 ・楽しく話すこと。1語でも2語でも積極的に発言できること。 ・リスニングや発音の仕方、楽しみながら英語に触れること。 ・楽しく英語に慣れ親しむこと。 ・英語を話すことを恥ずかしがらないようになること。 ・文字を見たり、聞いたり慣れ親しむこと。 ・英語は楽しいものだと思わせてくれること。 ・外国の文化に対する興味や関心を深めてほしいこと。 ・簡単なコミュニケーション等、話せるようになること。 ・英語を好き、楽しいと思う気持ちの育成をすること。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校では教育目標を「夢や希望をはぐくみ個性を生かして学ぶ児童の育成」とし、児童の学ぶ意欲を向上させ、一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを行っている。小学校1・2年生における外国語活動の効果と課題は以下の通りである。

【効果】

- ・ワークシートなどを活用し(文字を介さずとも)、会話を通して学ぶことができている。
- ・ALTが児童の発達段階に合わせた英語の歌やゲームを作成し、児童が楽しみながら英語学習(第二言語学習)に取り組むことができている。

【課題】

- ・苦手意識をもっている児童が「英語が楽しい」と感じるができるように、学習課題や発達段階に即した学習活動を行っていく。
- ・学習到達目標(CAN-DO リスト)や学習した内容、状況について、児童だけでなく保護者も把握できるようにホームページにCAN-DO リストの掲載を行うことやCAN-DO リストを活用する。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

パフォーマンステストでは、ルーブリックやモデル例を見ながら、課題把握や単元で使う表現を確認して取り組んだが、児童が自ら調整を行う時間の確保が十分ではなかった。日々の Small Talk の中で、パフォーマンステストで活用できる表現を学習しながら、児童が自らの学習を調整しながら、児童の自主的に練習に取り組む姿勢を育みたい。また、国語など他教科の学習内容と言語活動や学習活動を結び付けて、グルーピングマップを活用するなどして、自分の考えや気持ちを整理しながら、英語を使って伝え合う力を身に付けさせたい。

6年生の GTEC Junior2 においては、昨年度と比較すると全体のジュニアグレード4の値が12.1%下降し、56.4%となった。「話す力」の「自分のことについて伝えられる」の分野の正答率が32.2%であり、本校の課題と言える。

5. 課題の改善のための取組の方向性[外国語活動]

低学年の児童が外国語活動に意欲的に参加できるように、英語専科教員やALTだけでなく、学級担任やATの先生方の協力を得ながら複数の目によるサポート体制を整える。また、児童の学習の内容の理解が深まるように、自己紹介やTPR・世界の国々の国旗を見ながら、色や形・食べ物の言い方や表現を学習する。学校のホームページを活用して、年間の学習計画や授業での様子などを紹介し、保護者が児童の外国語活動を知ることができるようにする。

[外国語活動]

パフォーマンステストに向けて、教科書で学習した内容を児童が活用できるように、Small Talk や授業開始後の挨拶の時間に既習事項を繰り返し活用する活動を行う。児童同士がより自然に会話ができるようになるために、RepeatやReaction、Ask question、Plus1など、話を継続させるための話し方(テクニック)を活用する場面を積極的に設定していく。また、3~4年生では、非言語(ジェスチャー、アイコンタクト)等を積極的に活用していく学習活動を行う。

6年生は、中学生になっても自信をもって英語学習に取り組んでいくことができるように、教科書だけでなく、navimaやドリルプラネット、English 4 skills等を活用しながら多様な活動を行い、4技能の向上を目指していく。

